

冬の結婚式の服装マナー

冬の結婚式は防寒アイテムが必要ですが、物によってはマナー違反になってしまうことも。事前にしっかり確認しましょう。

殺生を思わせる素材は避ける

ファーや皮のジャケットは「殺生」を連想させるため、基本的には避けましょう。最近はカジュアルな披露宴も増えていて、ファーなどを身に付けても問題がない場もあります。ただし食事の席では、毛が飛んで周りの人の口に入るおそれがあるため、羽織り物は食事の席では脱いでクロークに預けるなどの気遣いが必要です。

大雪の日は靴を2足準備

結婚披露宴はフォーマルな場ですので、季節を問わず女性は「かかとのあるパンプス」が正式な靴になります。式の当日、雪が降っていてどうしても外を歩かなければならない場合は、ブーツを履いて入口でパーティ用の靴に履き替えればOK。雪まみれの濡れたパンプスで出席ということがないように気をつけましょう。

ストッキングは肌色が基本

カラータイツは基本的にはNG。黒タイツや黒ストッキングもお通夜やお葬式などの「不祝儀」を連想させるので、お祝いごとの披露宴では避けるべきです。ラメ入りや模様入りの華やかなデザインも許容されてきていますが、肌色のストッキングが基本とされています。

服装のマナーはゲストの客層やパーティーの格式にもよるので、可能であればお店や新郎新婦に事前に確認しておくとう安心です。